

街かどのお話 154

国選無形民俗文化財 両島お八日念仏

2月11日、鎌田地区公民館と両島公民館で、両島町会とお八日念仏が行われました。国の文化財として登録されている行事が、身近にあることを知ってもらい、ふれてもらおうと、井口幸信保存会会長がPTAと小学生に声をかけ、今年も草履づくりに参加してもらいました。



もっとしめて、ギュッとねじって

「自分が住む町の文化を知り、体験できて面白かった」「作るのが意外と難しかった」「大きなものが短時間でできあがっていく姿が印象的だった」「力のいれ加減が難しかった」と、小学生、PTAの方それぞれに感想を話していました。

厄除けや無病息災への祈りの行事であることを知ると、昔から今にうけつがれてきた命

小学生は自分たちの回す数珠に見立てた藁縄作りもしました。また、できあがった足半草履を、両島公民館に飾り、念仏を唱えながら数珠を回し、両島町会の南北の外れに飾るまでを一緒にやりました。



鎌田地区
令和6年3月1日現在
総人口 20,003人
(前年比 -36)
世帯数 9,585戸
発行者 鎌田地区公民館
公民館編集委員会



心あたたまる 冬の行事 あれこれ

のつながりを感じます。それが、文化や伝統の力なのかもしれません。



北の外れに、飾り付け完了



数珠を回しながら、念仏を唱えます

心も体も温まる 南原の福祉の集い

1月14日、南原公民館で「福祉の集い」が開かれました。町会長のあいさつのもと、30人ほどの参加者がピアノ伴奏に合わせて「母さんの歌」や「この道」など懐かしい歌を4曲歌いました。



ねらいどおり!(モルック)

心が温まったところで、今度は体力づくりリサポーターによるストレッチで体をほぐし、いよいよニユースポーツの「モルック」と「ポッチャ」体験です。それぞれのコートに分かれてゲームが始まりました。モルックでは、4チームすべてが50点を出して終了するという南原ルールの展開に、歓喜と驚きの連続で大変盛り上がりしました。



白に近いのはどっちだ!! (ポッチャ)

ています。いつの間にか体も温まり年齢を忘れて楽しむことができました。続いて、ティータイムの始まりです。お菓子を前に好きなドリンクをいただきながらテーブルごとに歓談していると、お楽しみのビンゴが始まりました。ハラハラドキドキしながら読み上げられる数字にカードとらめっこです。1等から5等までは、景品が大きな袋に入っていて中が見えません。それ以降はテーブルに並んだ景品から好きなものを選びます。日頃外に出ることの少ない高齢者が、リラックしながら交流を深め、心と体を温めることができました南原町会の福祉の集いでした。



♪北の～酒場通りには～♪



みんなで一緒に 月・Y・M・C・A月

感動の人権コンサート「ケ・セラ」

1月25日、鎌田体育館で鎌田地区人権啓発推進協議会主催の楽団ケ・セラによる人権コンサートがありました。ケ・セラは障がい者が暮らしやすいまちづくりをめざしており、その一つが障がい者自らの音楽活動で、令和5年度松本市文化芸術功労賞を受賞している楽団です。

19名の団員がキーボード、ギター、ドラム、トロンボーンなどいろいろな楽器を駆使し、アンコールを含め13曲を演奏しました。童謡、映画音楽、ピアノ、30人余りが聴き惚れました。「NHKののど自慢なら鐘3つ」という声もあがるほどの歌うま団員の演歌も好評でした。



PC木曜会 ワード、エクセルなど

鎌田地区公民館で活動しているパソコン教室のサークルは4つあります。それぞれ週1回半日、和気あいあいと楽しくやっています。

パソコンサークル

鎌田地区公民館 活動サークルの紹介⑤

どのオフィス全般を学んでいます。オフィスは奥が深いので10年以上続けている人もいます。PC勉強会 ある程度のエクセル経験者を対象に、中級の内容を学んでいます。



ブロック→削除 こんな具合だよ



こけ玉づくりに挑戦!

2月22日に鎌田地区公民館で竹下光重さんを講師に迎え、苔玉づくり講座を開催しました。ビニール袋に入れて柔らかくなるまで揉んだ土の上に、今回は、先生が用意してくださった植物「ハクリユウ」と「ヤブコウジ」の苗を置いて球状になるように丸めます。それを平らに敷いた苔の上に置いて、苔で上手に包みながらギュッと握り、糸を巻き付けて固定したら完成です。植物の配置の仕方や土の丸め方によって、それぞれ表情の違う苔玉が出来上がりました。

参加者は、手入れの仕方や育て方を熱心に質問していました。ハクリユウもヤブコウジも、時期が来ると花が咲いて実がなる縁起の良い植物とのこと。長く大切に育てたいですね。

雑感

悪天候で列車が立ち往生したことがあった。そのときの車掌さんの対応が、災害時にも役立つとうと心に残った▼まずは情報。停車の理由、再開のめど、代替運行など、知りたい情報が順次伝えられた。運転再開は2時間後と伝えられた後には、トイレや自販機的位置、運賃の払戻し方法など、新たな情報が案内された。再開時刻は遅れることもあると、最悪の場合も想定させる▼見ると車掌さんは、タブレット画面を何度も確認している。本部からオンラインで指示があるのだろう。組織としての連携が大切だ▼乗客への配慮も行き届いていた。一人一人に行き先を聞き、車内の温度調整をこまめに行う。何度も車掌室から出てきて「温度はいかがですか」と確認する心配り。そんな姿もあったからか、乗客同士で席をゆずり合う声が聞かれ、車内は穏やかな雰囲気だった▼松本駅に近づいた頃、最後の車内放送が遅れた。「この列車は286分遅れまして...」。5時間近い遅れを「分」で正確に伝えていたのも、仕事への矜持に違いない。(五十嵐一雄)